大山町議会議長　野 口 俊 明　様

大山町議会議員　　近 藤　大 介

平成25年大山町議会議員研修報告書

1	日　　時	平成25年10月10日（木）～　11日（金）	
2	研 修 地	滋賀県大津市　全国市町村国際文化研究所	
3	研修内容	（　内　　容　）	（　場　所　）
		(1) 町村が抱える課題と町村議会議員の役割	滋賀県大津市
		(2) 「写真のまち・ひがしかわ」のまちづくり	滋賀県大津市
		(3)地域力の創造と地方の再生	滋賀県大津市
4	研修結果又は概要（意見・感想）	(1) 町村が抱える課題と町村議会議員の役割 講師：筑波大学　岩崎美紀子教授 ・基礎自治体制度の沿革について概説 町村：最も人（現場）に近い政府＝基礎自治体（ローカルガバメント） 地方６団体のうち２つが町村（町村長会、町村議長会） ・「生きる」ための３つの次元・・・３つの次元の全てを実現できるのが町村 生存する：水、食料、空気・・・都会では供給できない 生活する：住居、電気、買い物、仕事、道路、交通、通信、学校 etc 生きる　：病院、余暇、緑地空間、文化、スポーツ ・・・「場所の価値」が町村にはある 仕事・・・企業（誘致）から、地域資源を活かして「起業」する時代 ○「新しい公共空間」にふさわしい議会のあり方 ・「新しい公共空間」（市民、企業、NPOなど多元的な主体による「公共」） ・危機意識と改革意欲を議会と首長・職員が共有 １．「新しい公共空間」の形成を踏まえた議会の刷新 ・一部の住民や特定の団体のみならず、幅広い住民からの意見を把握 ・議員個人の責任の明確化、自発的な能力向上・改革推進 ２．議会と執行機関の関係の刷新 ・政策立案過程における議会の役割 ・行政評価結果の議会への報告の義務付け ・議会事務局の専門性の向上	

	研修結果又は概要（意見・感想）	(2) 「写真のまち・ひがしかわ」のまちづくり 講師：北海道東川町　松岡市郎町長 ○町の目標 ・町の人口目標･･･定住人口 8,000 人＋交流支援人口 2,000 人＝１万人 ･･･交流支援人口＝「写真の町」ひがしかわ株主条例による株主と応援町民 ･･･定住人口が近年増加に転じ、交流支援人口も６年で目標達成 ○まちづくりの視点 １．グローバル ・国際教育の推進･･･ALT３名、交流員３名（ラトビア、韓国、中国、タイ） ・職員の海外派遣（３ヶ月以上）･･･中国１名、韓国１名、カナダ２名 ・日本語・日本文化研修事業（H21～）…650 人（韓国、中国、ﾀｲ、ﾗﾄﾋﾞｱ） ２．ポジティブ ・３つの「ない」から脱皮･･･前例がない、他の町にない、予算がない ・change、challenge、chance　ダメで元々で「動く」と「出会い」がある ・職員の活性化 ３．キョウドウ（協働、協同、共同）の視点 ・住民･･･自治振興会とパートナー関係 ・自治体･･･一部事務組合、広域連合 ・大学等･･･君の椅子プロジェクト、日本語教育（町内の専門学校） ・民間･･･写真甲子園、トライアスロン大会等 ・国、北海道･･･財政的な支援 ○具体的な取り組み事例 ・モンベルひがしかわ店の誘致･･･モンベル会長と出会い、大山町から学ぶ ・北工学園（介護福祉士、保育士養成の専門学校）との連携 ･･･生徒数減少を短期日本語・日本文化学習コース開設で補う ･･･寮生が増え、中心市街地が活性化 ・写真甲子園 ・婚姻届、出生届をメモリアルな証明書に.（婚姻届：年 20 件→100 件に） ・日本一教育のまちづくり ･･･16ha の敷地の小学校建設（H26）：遊びの広場、食育水田、畑、果樹園 ・「写真の町」･･･写真の町は「写心」の町　写真の町宣言（1985.6.1）

4	調査結果 又は概要 （意見・ 感想）	(3) 地域力の創造と地方の再生 講師：総務省地域力創造アドバイザー　椎川忍氏 ○緑の分権改革～あるものを活かす地域力創造 ・文明（西洋的な物質主義、合理主義）のターニングポイント ・次の文明のポイントは何かを考えよ。サスティナブル（持続可能）で、ハイブリッド（２つの組み合わせ）がキーワード。近現代的なもの、制度に、日本の伝統的なものを２割程度残した方がいい。 ・ちょっと昔の日本の農山村の素晴らしい姿を少し取り戻す ・緑の分権改革･･･民主党政権・原口総務相が提唱。経済・社会システムの分権化。地域に昔からあるものをもう一度活かし、価値を再生し富を生むよう、地域の自給力と創富力を高める。 Ex）再生可能エネルギー、森林の再生、１次産業振興と６次産業化、地産地消、古民家再生、町並み保存、地域ファンド、地域通貨 ・安倍政権では「地域経済循環創造事業交付金」として引き継がれている。 ・富士山が世界遺産になったが、山岳信仰の山は他にもある。自治体連携し、再興すべき。 ○「公務員参加型地域おこし」のすすめ ・「新しい公共」は、町村にとっては「懐かしい公共」･･･地域のことは地域でやる ・ランチェスター戦略（戦争を初めて定量的、統計的、数学的に扱う）に学べ ･･･弱者の戦略と強者の戦略 ･･･弱者の戦略：差別化、一点集中、局地戦、接近戦、一騎打ち戦 ･･･強者の戦略：同質化、総合主義（物量戦）、広域戦、遠隔戦、確立戦 ･･･地域の強みを知る、小組織で分業化しない ・住んでる人たちが誇りと自信を持って、心から良い地域だと思える地域づくりが、観光振興につながる。「観光は地域づくりの鏡」 ・地域には結局、「ヒト」と「モノ」しかない ・地域力は「資源力」と「人間力」 ・住民も、公務員も、少しだけ汗をかく、手間をかける
		(4) まとめ ３人の講師から共通して、「地域資源を活かして」という言葉が出た。問題は、その資源を、どういう主体が、どんな手法で、どういう形で地域振興に活かすかだと思う。つまるところ、それをなすヒトを育てなければならないのだと感じた。